

令和2年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和3年3月9日（火）

Web会議形式にて開催

2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

全国的に、新型コロナウイルス感染症の影響により物流が滞っている一方で、諸外国の木材の需要が旺盛になっていることから、外国産材の輸入の減少が見受けられる。

当局管内では、一部の地域で出材量の回復がみられるが、昨年末からの寒波の影響等による出材量の減少から、多くの地域で原木が不足しているとの声が聞かれる。

価格については、品薄感から一部値上がりしている地域や品目が見受けられるものの、今後の出材量に左右されることから、不透明な状況が続くものと考えられる。

以上のことから、地域の状況を見極めつつ、引き続き立木販売箇所の搬出期間の延長を要請に応じて措置していく。一方で、原木が不足する状況に対応するため、延期してきた立木公売（主伐主体）の公告を再開していく。

また、令和3年度の素材生産事業を早期に発注することにより、早期の原木供給を実施するよう努める。

〈主な情報、意見等について〉

○木材の需給動向について

- ・和歌山県では、コロナの影響で今年度の上半期の素材生産が前年比 14,000 m³の減産。秋口からは、A材や合板用原木の買い付けの拡大に伴い、年間 18,000 m³の減産にとどまった。前年比 93%、年間 244,000 m³の出材量。年末からは通常の本木の生産体制に回復したが、未だ山元からの搬出が増えていないため、市売りの量は依然として少ない状況。
- ・和歌山県内 4 市場のスギ原木価格は、昨年 5 月から 9 月までの約 5 ヶ月間、1 万円を割り込んだが、現在は前年並みに回復。
- ・奈良県内の原木市場の状況は、今年の 1 月と 2 月の実績で売上額はプラス 6%、売上材積はプラス 1%と、ほぼ前年並み。例年の 10 月から 2 月までの期間は伐採シーズンとなるため、出材量が増加して安定する時期だが、昨年はコロナの影響で大きく需給バランスが崩れ、その影響が今も川上に残っており、素材生産の体制が弱っている。現在は、素材価格の上昇が見られるので、出材が回復に向かうよう、市場としても山側に発信している。
- ・兵庫県では、丸太の買い受け単価を上げて出材自体がない。ヒノキの流通は従前どおりだが、スギはバイオマス用として安定的に購入してもらえるため、バイオマスに流れている。
- ・岡山県では、コロナ禍の影響で建築着工数等の先行きが不透明な中、スギ原木の市場への出材は減少し、バイオマス用に出荷されている状況。ヒノキ原木の市場への出材は、県外の買手による引き合いが大きく、価格もやや持ち直してきており、前年並みで推移。製材工場の稼働状況は概ね順調。外材の代替としての生産も増えている。
- ・梱包材の生産量は、一時、前年の 5 割程度まで減少。昨年末には 8 割程度まで回復している。
- ・コロナによるプレカット工場への影響には地域差がある。九州では比較的本木の供給が十分なため、集荷が容易で増産となっている。茨城県では増産基調。和歌山県では本年 2 月から受注が増加傾向で、例年並みに回復しつつある。広島県と岐阜県は、原木集荷に非常に苦戦している状況。製材量を増やしたいが、原木の在庫を見ながら操業するといった状況が続いている。
- ・京都府の合板工場は B 材不足で休業に追い込まれた。
- ・コロナ禍ではあるが、韓国向けの製品輸出は非常に好調。注文が、台湾、中国からも来ている。
- ・大阪府の製品市場では、令和 3 年 2 月までの 1 年間の売上高は前年比 22%減、販売量は 23%減と大幅に落ち込んでおり、特にコロナの影響で昨年 4 月以降の落ち込みが顕著。外国産材の落ち込みよりも国産材の落ち込みの方が大きい。

○今後の見通しについて

- ・現在、外国産材の価格が軒並み上昇しており、国内の原木高・製品安の状態がさらに 1 年程度続くものと予想される。
- ・低質材の出材は若干増加傾向だが、製材用原木の出材は依然少ない状況が今年の夏場にかけて続くものと予想される。秋需要に向けて、総じて出材量も安定してくるのではないかと思われるが、先行きは不透明。
- ・輸入製材品の代替品となるスギ間柱も品薄状態であり、この状況が続くと、木材価格の高騰や納期遅れの問題も出てくるのが心配される。

○国有林材の需給調整の必要性について

- ・外国産材が入って来ない等、広い意味で木材流通へのマイナス面の影響があり、従来と異なる動きがでてきている現状で、供給抑制ではなく、国有林から何かしら原木の供給を増加させるようなメッセージを出すべきではないか。
- ・これまでは、原木価格の暴落を防ぐために供給を絞る方策をとったが、地域によっては一生懸命出材したことで原木不足をまかなえた地域もあるので、地域差は大きな問題である。

○その他

- ・アメリカでは、米マツのディメンションランバーが 45 ドルアップの 925 ドル。過去最高水準になった。
- ・米国内の米マツ製材品を日本のマーケットに輸出した場合、末端価格が7万円と高額になるためアメリカの製材工場は、日本向け輸出を当面または永久に止める模様。
- ・アメリカの木材需要が非常に強く、ヨーロッパからの出材もアメリカ向けに振り向けられており、その影響がアジア・日本向けにおよび、原木・製品輸入は厳しい状況となり、日本国内の木材需給にも影響している状況。
- ・原木輸出について、国内需要を優先し、国内需要を超えたものは輸出という制度に変えるべきと考える。